



すべての先生が迷いなく適切に評価できるように工夫したこと

佐藤 美智子
鳴門教育大学大学院
特命准教授



近年多く寄せられるご相談の一つに「評価」があります。「評価は難しい」「『思考・判断・表現』の評価の仕方がわからない」「自作のペーパーテストは必要か」など、その内容はさまざまです。Junior Sunshineは、こうした評価に関する先生方のお悩みや疑問を解決する、わかりやすく使いやすい教科書を目指しました。初めて外国語の指導を担当される先生方でも迷うことなく、適切な評価を行いながら授業を進めていただけることでしょうか。本稿では、その主な特長を3つご紹介します。

1 単元ごとの指導と評価の精選

新しいJunior Sunshineは、各単元で重点的に行う指導と評価の領域や観点を精選し、目標をシンプルにしました。それは、求める資質・能力が偏りなく育成できるよう、2年間の指導と評価の計画を丁寧に作成したことで実現しました。目標を焦点化することで「何を指導し、評価すればよいのか」が明確になり、先生方の迷いや負担感を軽減できたと考えます。児童が適宜振り返りを行い、学習の見通しを立てられるよう、巻末の「CAN-DOチェック」でも、年間の評価計画を一目で確認できるようにしています。



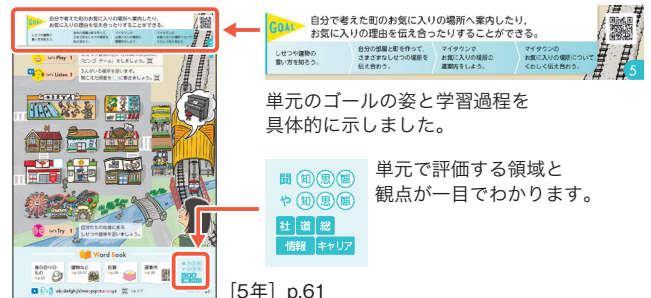
児童が年間の評価計画を確認できます。

[5年] CAN DO チェック(巻末)

2 指導と評価の視覚化

各単元の冒頭のページは、児童を単元の学習へいざなう大切な役割を担っています。そこでも「指導と評価の一体化」を可視化する工夫を取り入れ、右上部に単元ゴールとそこに至るまでの道筋をまとめた「単元チャート」を、右下にはその単元の「指導と評価の領域と観点」を示しました。先生方はもちろん、児童も単元終末の自分の姿を想像しながら、見通しをもって学習を進めていくことができるでしょう。また、単元内には「記録に残す評価」の場面を計画的に位置づけ、紙面上にその領域と観点も明示しまし

た。「思考・判断・表現」の評価を行う活動では、目的や場面、状況に応じて「知識・技能」を活用する課題となるよう、指示文などにも配慮を加えました。



単元のゴールの姿と学習過程を具体的に示しました。

単元で評価する領域と観点が一目でわかります。

[5年] p.61

3 「Let's Check」の新設

新しいJunior Sunshineの目玉の一つが、年3回の「Let's Check」です。作成に当たっては、扱う領域や観点について児童の発達の段階や学習状況を十分に考慮することに加え、児童が親しみをもって取り組めるようストーリー性をもたせた構成にしました。先生方が指導したことが児童にどの程度身についたかを把握し、記録に残して指導の改善につなげ、児童が自身の学びを振り返り、成長や課題を確認して次の学びへと向かう機会になればと願います。

「評価は児童の学びを支援するためのもの」という考えのもと、目標に向けた指導と評価の一体化を実現するために創意工夫を凝らしました。先生方が児童の実態を踏まえてさらに教科書に命を吹き込み、成長の記録となるJunior Sunshineを創っていただけたら幸いです。

年3回のLet's Checkで、ペーパーテストとパフォーマンステストの両面から児童の学習状況を確認することができます。



[5年] pp.44-47